

雜 報

◎人 事

正六位勳四等 小竹 豊
 級勳三等授瑞寶章 (一月十六日)
 従六位勳四等 岸本 春菜
 従六位勳五等 西村 慶次
 従六位勳四等 石井 生夫
 級正六位
 級正五位 従五位 大熊 泰治 (十三年十一月)
 陸軍軍醫中尉從七位 内山 友吾
 任陸軍軍醫大尉
 (十三年十一月)
 級正六位 従六位勳六等 武波 晋一
 級正七位 従七位 木下 武男 (十二月一日)
 級正七位 従七位 内山 友吾 (十三年十一月)
 保険院保健技師 三木 行治
 簡易保険局勤務ヲ命ス (二月十七日)
 藤原 栄士
 安藤 貢
 級正八位 (十二月一日)

○横川 定君 帝國學士院2月例會は去る13日開催し其席上に於て昭和14年度學術研究費補助を決定し同君に次の研究題目に就き補助することとなりたり

バンクロクト絲状蟲及び同蟲症に関する研究
 ○井爪 昌和君 豫て岡山醫科大學石山外科教室に勤務し居られしが先般廣島縣府中町々立病院に轉勤せられたり
 ○高尾 秀一君 同上の同君は下關市岬之町西尾病院外科に轉勤せられたり

○龍 譲君 同上の同君は本縣兒島郡日比町玉造船所病院に勤務せられたり
 ○倉橋 三郎君 豫て岡山醫科大學北山内科教室に勤務し居られし同君は先般神戸市東山町市立東山病院に轉勤せられたり
 ○高橋 篤郎君 同上の同君は栃木縣堀米町佐野共立病院に轉勤せられたり
 ○徳毛 阜三君 豫て岡山醫科大學津田外科及び當市禰原病院に於て研究中の同君は先般愛媛縣周桑郡壬生川町周桑病院に勤務せられたり
 ○小坂 昭男君 豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科に勤務し居られし同君は今般別項西村伊勢松君の後任として日本赤十字社岡山支部病院耳鼻咽喉科醫長に就任せられたり
 ○佐藤 次文君 豫て岡山醫科大學津田外科教室に勤務し居られし同君は今般別項の川崎祐宣君の後任として岡山市立市民病院外科主任として就任せられたり
 ○上塚萬壽男君 豫て神戸市川崎造船所病院に勤務中の同君は先般辭職の上岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に於て研究に從事せられたり
 ○佐藤 直泰君 豫て在兵庫縣甲子園未岡病院に勤務し居られしが先般其職を辭し岡山醫科大學生理學教室に於て研究に從事せられたり
 ○三木 行治君 豫て岡山市簡易保険健康相談所長たる同君は別項の如く厚生省簡易保険局に轉任せられたり
 ○森 六朗君 豫て津山市簡易保険健康相談所長たる同君は別項三木君の後任として岡山市簡易保険健康相談所長に補せられたり
 ○伊藤 嶽君 本縣笠岡町簡易保険健康相談所に勤務し居られし同君は別項森君の後任として津山市簡易保険健康相談所長に補せられたり

○西山昇君 豊て香川縣三豊郡莊内村に於て開業中の同君は今般中華民國北京西城關才頭條第4號に移轉開業せられたり

○西村伊勢松君 日本赤十字社岡山支部病院開院以來耳鼻咽喉科醫長として勤務し居られし同君は今般其職を辭し當市東中山下に於て開業せられたり

○川崎祐宣君 多年岡山市民病院外科醫長兼副院長として勤務し居られし同君は今般其職を辭し岡山市西中山下に於て開業せられたり

○今井一郎君 は豫て岡山醫科大學生化學教室に於て研究中なりしが先般同教室を辭し廣島縣安佐郡保井村に歸郷開業せられたり

○河合忠君 は豫て尼崎市市立病院に勤務中の同君は今般其職を辭し大阪市此花區上福島北3丁目123に於て開業せられたり

田邊郁郎君逝く 君は大正3年岡山醫學専門學校を卒業し郷里に於て後神戸市灘區王子町に轉し開業し居られしが去月22日逝去せられたりと寔に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

赤堀茂樹君 は大正9年岡山醫學専門學校を卒業し陸軍軍醫となり軍醫少佐に累進し官を辭し數年前より本縣勝田郡飯岡村に於て開業し居られしが日支事變起るや勇躍應召し各地に轉戰し戰功ありしが先般戰病死せられたりとの悲報本宅に達したりと寔に痛惜に禁へず謹みて茲に弔意を表す

◎學位授與

横山丈夫、森岡廣一、田丸朔、太田徳次郎の4君に論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが横山君は昨年12月5日の教授會を通過し

本年1月28日、他の3君は同年12月19日の教授會を通過し本年2月16日孰れも醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及參考論文は次の如し

横山丈夫君

主論文

過敏症抗體變動ニ關スル研究

- 第1. 脾臟ト抗體量トニ就テ（追テ本誌ニ發表ノ豫定）
- 第2. 「ベンツオール」ト抗體量トニ就テ（追テ本誌ニ發表ノ豫定）

参考論文

1. 「ベンツオール」中毒ノ血液像ニ及ボス影響ニ就テ（追テ本誌ニ發表ノ豫定）
2. 酸及ビ「アルカリ」排泄能力ニ依ル腎臟機能検査法ニ就テ（村山高共著）（本誌第39年第9號ニ發表ス）
3. 先天性筋強直症ノ2例（福田豊共著）（本誌第41年第9號ニ發表ス）
4. 薰外光線照射ノ生物學的作用殊ニ其ノ植物神經系統ニ及ボス影響ニ關スル實驗（小津尚共著）（本誌第43年第1號ニ發表ス）
5. 市販酵素剤ニ及ボス紫外線ノ作用ニ就テ（實踐醫學第6年第3號ニ發表ス）

森岡廣一君

主論文

「トリコモナス・ホミニス」(Trichomonas hominis)ノ生物學的性狀ニ關スル實驗的研究

- 第1編 「トリコモナス・ホミニス」ニ及ボス諸種ノ物理學的影響並ニ化學藥品ニ對スル抵抗力ニ就テ（臺灣醫學會雜誌第37卷第2號ニ發表ス）

- 第2編 各種培養基ニ於ケル「ト・ホミニス」ノ繁殖並ニ生存期間ニ就テ（臺灣醫學會雜誌第37卷第3號ニ發表ス）

- 第3編 田邊氏培養基ニ於ケル「ト・ホミニス」ノ増殖及ビ生存ニ及ボス溫度酸素及ビ

- 添加物質ノ影響ニ就テ（臺灣醫學會雜誌第37卷第4號＝發表ス）
- 第4編 培養「トリコモナス」ノ繁榮頽敗現象及ビ榮養刺錢現象ニ就テ並ニ「トリコモナス」ノ繁殖ニ伴フ培養基粘稠度ノ推移（臺灣醫學會雜誌第37卷第4號＝發表ス）
- 第5編 「トリコモナス、ホミニス」ノ食物攝取機能ニ及ボス諸鹽類滲透壓ノ影響ニ就テ（臺灣醫學會雜誌第37卷第4號＝發表ス）
- 第6編 生體染色ニ就テ（臺灣醫學會雜誌第37卷第4號＝發表セリ）
- 第7編 「トリコモナス、ホミニス」ト腸内細菌トノ關係並ニ「トリバノトキシン」及ビ「バクテリオファーデ」ノ本原蟲ニ及ボス影響（臺灣醫學會雜誌第37卷第5號＝發表セリ）
- 第8編 「トリコモナス、ホミニス」ノ糖類分解能ニ就テ（臺灣醫學會雜誌第37卷第5號＝發表セリ）
- 第9編 「トリコモナス、ホミニス」ノ硫化水素發能ニ就テ（臺灣醫學會雜誌第37卷第5號＝發表セリ）
- 第10編 「トリコモナス、ホミニス」ノ「インドール」產生能ニ就テ（臺灣醫學會雜誌第37卷第5號＝發表セリ）
- 参考論文**
1. 顔面ニ發生シタル汗腺癌ノ1例（菅沼三郎共著）（臺灣醫學會雜誌第31卷第12號＝發表セリ）
 2. 小兒臍胸ノ統計的觀察（小林智仁夫共著）（臺灣醫學會雜誌第32卷第4號＝發表セリ）
 3. 腰麻手術後偶發セル中毒樣症候群（臺灣醫學會雜誌第32卷第5號＝發表セリ）
 4. 骨盤ニ發生セル肉腫ノ1例（臺灣醫學會雜誌第32卷第12號＝發表セリ）
 5. 肩胛間胸部切斷術ヲ施セル巨大上肺骨肉腫ノ1例（臺灣醫學會雜誌第33卷第1號＝發表セリ）
- 表セリ）
6. 臺北ニ於ケル幼兒外科的疾患ノ統計的觀察（臺灣醫學會雜誌第33卷第1號＝發表セリ）
 7. 腓骨々幹骨折ヲ伴ヘル腓骨上端脫臼兼動搖ノ1例ニ就テ（臺灣醫學會雜誌第33卷第3號＝發表セリ）
 8. 顎骨々折5例ニ就テ（臺灣醫學第33卷第7號＝發表セリ）
 9. 唾液腺腫瘍（臺灣醫學雜誌第33卷第10號＝發表セリ）
 10. 兩側性腰胸（臺灣醫學會雜誌第33卷第11號＝發表セリ）
 11. 臺北醫學專門學校生徒ノ糞便檢查成績（今泉、久平、高屏田共著）（臺灣醫學會雜誌第35卷第7號＝發表セリ）
 12. 孤立結節状ヲ呈シ盲腸壁ニ見ラレタル Recklinghausen 氏病様畸形の異常神經組織ニ就テ（臺灣醫學會雜誌第36卷第2號＝發表セリ）
-
- 田丸 勉君
- 主論文**
- 眼組織ニ於ケル濱崎汞・耐酸性顆粒ノ研究
- 第1編 家鼠眼組織ニ於ケル濱崎氏汞・耐酸性顆粒ノ研究，殊ニ網膜ノ組織的所見ニ就テ（日本眼科學會雜誌第42卷第6號＝發表セリ）
- 第2編 鮒ノ網膜ニ於ケル濱崎氏汞・耐酸性顆粒ノ研究，殊ニ明暗ノ之ニ及ボス影響ニ就テ（日本眼科學會雜誌第42卷第7號＝發表セリ）
- 第3編 「ヴィタミン」A 缺乏食ニテ飼養サレタル白鼠眼組織ニ於ケル濱崎汞・耐酸性顆粒ノ消長ニ就テ（追テ日本眼科學會雜誌＝發表ノ豫定）
- 参考論文**
1. 中心性網膜炎ノ再發症ニ再發部位ニ就テ

(實驗眼科雜誌第 198 號 = 發表セリ)

2. 翼状贅片ノ統計的觀察(中央眼科醫報第 29 卷第 10 號 = 發表セリ)
3. 緑膿菌ニ因ル角膜潰瘍ノ 1 例ニ就テ(實驗眼科雜誌第 163 號 = 發表セリ)
4. 球結膜下ニ發生セシ硬性纖維腫(實驗眼科雜誌第 173 號 = 發表セリ)
5. 家族性翼状贅片ノ 1 例ニ就テ(實驗眼科雜誌第 153 號 = 發表ス)
6. 脳底後交通動脈瘤ニ因ル左側動眼神經麻痺(箕越中共著)(追テ日本眼科學會雜誌 = 發表ノ豫定)

太田徳次郎君

主論文

太陽光線ノ死體分解ニ及ボス影響(本誌第 50 年第 9 號 = 發表セリ)

参考論文

1. Trichlorbutylalkohol(Chloretton)ノ動物體内ニ於ケル運命ニ就テ(本誌第 47 年第 11 號 = 發表セリ)
2. 實驗的日本住血吸蟲病家兔ニ於ケル室素新陳代謝ニ關スル研究(西崎武亥一共著)(本誌第 48 年第 3 號 = 發表セリ)
3. 早流產ニ於ケル Zondek-Achheim 氏妊娠診斷法ノ範圍(本誌第 47 年第 11 號 = 發表セリ)
4. 月經週期ノ基礎新陳代謝ニ及ボス影響(臨牀產科婦人科第 8 卷第 2 號 = 發表セリ)
5. 各種赤血球沈降速度測定法ノ比較並ニ沈降速度ノ外因的條件ニ就テ(グレンツゲピート第 4 年第 1 號 = 發表セリ)
6. 赤血球沈降ノ寫眞的觀察(ゼヂグラフ)ニ就テ(臨牀產科婦人科第 4 卷第 4 號 = 發表セリ)
7. ブツキー氏「グレンツストラーレン」ヲ以テセル潰瘍療法ニ就テ(グレンツゲピート第 4 年第 2 號 = 發表セリ)

滿支旅日記(上)

畠 文平

滿洲事變も支那事變も、吾國としては堪忍袋の緒が切れて謂はば止むに止まれず立ち上つた正義の戰であつたが不幸が反つて幸となつて吾が國が東洋の盟主として實現せねばならぬ運命である所の大陸政策、即ち 4 億の民衆の幸福の爲めに、5 族協和を礎として建設せらる可き王道樂土の理想が早くも具現せらることとなつたのである。長期抗日を叫ぶ逆賊討伐の銃聲の消ゆるまもなく長期建設の聲の音が丁々として響いて居る。

大陸に於ける建設の模様は如何に、民衆惠澤の第一線たる醫療救治の状態は如何、惡疫傳染病の豫防状態は如何、而して吾が忠勇將士の現地活躍の状況は如何に、醫師の就職需要關係は如何に、これが吾人に與へられたる大陸觀察の使命であつた。併しながら政治的軍事的第一線である滿洲國及び支那殊に其の邊境に到つて其の實相を極めこれを報導する事は軍の機密上に許されざる所尠く無い、加ふるに吾々の淺薄なる觀察は之に更に災して豊富なる收獲と號して諸君の上に齎らし得る所のあまりにも妙きは慚愧の次第であるが、只茲には旅日記として僅かの見聞を記し責任の一部を果したひと思ふ所以である。

10月17日(神嘗祭)(岡山より下關へ)

知人多數の見送りを受けて岡山驛を午後 1 時 45 分の急行で出發した、極めて上天氣の秋日和でこんな日が旅行中 1 日の雨も無く續いたのは幸運であつた。午後 5 時廣島に着き、驛迄來られた田丸博士父娘、箕越君夫妻と話す機會を得た。9 時下關着、慌ただしくも關釜連絡船興安丸に乗り込む、6000 噸許りの新造船で寢臺の乗心地も汽車のと同様、大した動搖も無く夢の中に海峽を渡つた。

10月18日(釜山より京城へ)

6時少し前に起された、船は已に 釜山の棧橋に横付けとなり茜色の空から朝風が消々しく吹き込